

第十講座 エントリーシート  
 [本講座]デカルトの真理観  
 [プラス講座]デカルトが説く理性と情念

[主要推奨文献]

- [10あ]デカルト著 落合太郎訳 『方法序説』 岩波文庫  
 [10い] デカルト著 桂寿一訳 『哲学原理』 岩波文庫  
 [10う] 野田又夫著 『デカルト』 岩波新書  
 [10え] 吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波新書

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
10-1	◎中世ヨーロッパ(12~17世紀)大学の成立と推移 講義録項目[10A, B]に関連 イタリアのボローニャ大学をはじめ、12世紀以降にヨーロッパで「大学(学生 団)」が成立した経緯、またその後の学部組織や教育内容がどのように推移し たか。 推奨文献関連箇所[10え]p24-78
10-2	◎デカルトの「知恵の木」 講義録項目[10D]に関連 デカルトの「知恵の木」では学問の目的や学ぶ順序がどのように考えられて いるか。 推奨文献関連箇所[10い]p22-24 [10う]p55-61
10-3	◎デカルトの「仮の道徳」 講義録項目[10E]に関連 デカルトがなぜ「仮の道徳」が必要だと考え、その内容はいかなるものであつ たか。 推奨文献関連箇所[10あ]p34-43 [10う]p78-86
10-4	◎デカルトの「方法的懐疑」と「考える我」 講義録項目[10F~G]に関連 デカルトの「方法的懐疑」とはいかなる探求姿勢であり、それによってなぜ 「我思うゆえに我あり」という真理を見いだせたのか。 推奨文献関連箇所[10あ]p44-45 [10う]p87-106
10-5	◎デカルトの真理探究 講義録項目[10H~I]に関連 「我思うゆえに我あり」からさらに進んで、デカルトはどのような方針にもと づき真理探究を継続したか。また真理認識が「自由」に結びつくとしたが、そ れはいかなる意味であるか。 推奨文献関連箇所[10う]p114-123, 163-177

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの**赤枠内の整理番号**(例: 10-3)を  
明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
を用いて[10あ]等の仕方で表示できます。(デカルトの著作については岩波文庫以外  
の版を用いても構いません。)

第十一講座 エントリーシート  
 理性的存在としての人間 —カント—

[主要推奨文献]

[11あ]カント著 篠田英雄訳 『道徳形而上学原論』 岩波文庫

[11い] 宇都宮芳明著 『カントの啓蒙精神』 岩波書店

[11う] 吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波新書

レポート③用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
11-1	◎カントの「行為の道徳的価値」講義録項目[11B]に関連 カントは「行為の道徳的価値」をどのように考えたか。「意志」や「義務」に関連 づけて記述しよう。推奨文献関連箇所[11あ]p22-50 [11い]p91-124
11-2	◎カントの「定言命法」講義録項目[11C][11D]に関連 カントの「定言命法」は「仮言命法」とどこが違うか。また、カントが定言命法 としてあげたもの(根本方式や人格尊重など)の内容はいかなるものか。 推奨文献関連箇所[11あ]p85-103 [11い] p91-124
11-3	◎カントの「完全義務と不完全義務」講義録項目[11E]に関連 カントは「完全義務」「不完全義務」というものをどのように説明しているか。 推奨文献関連箇所[11う]p104-107
11-4	◎カントの大学論 講義録項目[11F]に関連 カントは大学における哲学部の役割を提言したが、それは大学にとって何を 必要と考えていたからか。推奨文献関連箇所[11う]p81-87

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：11-3)を  
 明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号  
 を用いて[11あ]等の仕方で表示できます。(カントの著作については別の訳者や出版  
 社の版を用いても構いません。)

第十三講座 エントリーシート

[本講座]国際平和を考える ―ホッブズ・ヒューム・カント―

[プラス講座] ニーチェと永劫回帰

[主要推奨文献]

[13あ]宗像恵・中岡成文編著 『西洋哲学史 近代編』 ミネルヴァ書房

[13い] 細谷雄一著 『国際秩序』 中公新書

[13う]カント著 池内紀訳 『永遠平和のために』 集英社

[13え]ニーチェ著 阿部六郎訳 『この人を見よ』 岩波文庫

レポート③用選択テーマ

テーマ 整理番号	テーマ内容
13-1	<p>◎人間の自然本性と秩序の形成 講義録項目[13A][13B]に関連                      ホッブズ、またはヒュームは人間の自然本性をどのようにとらえ、人間社会ではどのような秩序が形成されることが望ましいと考えたか。ホッブズかヒュームのどちらか一方を選ぶか、あるいは両者を比較しながら述べる。                      推奨文献関連箇所[13あ]p38-43, 102-112 [13い]p34-68</p>
13-2	<p>◎カントの考える「自然」 講義録項目[13D]に関連                      カントは人間を動かす「自然」というものをどのように考えたか。自然は人間をどのような方向に向けるのか。                      推奨文献関連箇所[13う]第二章全般</p>
13-3	<p>◎カントの平和論 講義録項目[13C][13E]に関連                      カントは「戦争」というものを、他人をどのように扱うことから生じると考えているか。また、戦争を防ぐためにいかなる提案をしているか。                      推奨文献関連箇所[13う]全般</p>
13-4	<p>◎ニーチェの永劫回帰 講義録項目[13F][13G]に関連                      ニーチェの「永劫回帰の肯定」にはどのような人間観、世界観が根底にあるか。彼は「永劫回帰」を通じて何を訴えようとしているのか。                      推奨文献関連箇所[13あ]p281-283 [13え]p114-123(「悲劇の誕生」の項)</p>

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：13-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[13あ]等の仕方に表示できます。(ニーチェ、カントの著作については他の訳者や出版社の版を用いても構いません。)

第十四講座 エントリーシート  
 ロールズの格差原理 — 功利主義や実力主義への批判 —

[主要推奨文献]

- [14あ] 児玉聡著 『功利主義入門』 ちくま新書  
 [14い] ロールズ著 川本隆史他訳 『正義論』 紀伊國屋書店  
 [14う] マイケル・サンデル著 鬼澤忍訳『これからの正義の話をしよう』 早川書房

レポート③用選択テーマ	
テーマ 整理番号	テーマ内容
14-1	◎功利主義について 講義録項目[14C]に関連 功利主義は、ある行為が道徳的であるかどうかの判断基準をいかなる点においたか。できれば功利主義の利点あるいは問題点にも触れる。 推奨文献関連箇所[14あ]全般
14-2	◎ロールズの「無知のベール」の仮説について 講義録項目[14D][14E]に関連 ロールズは、「無知のベール」のもとにある人々がどのような社会契約を選ぶ、または選ばないと考えたか。その理由は何か。また、ロールズが実力主義や功利主義を批判するのはなぜか？ 推奨文献関連箇所[14い]第二章(10～19節) [14う] p183-216
14-3	◎ロールズが考える公正な社会制度 講義録項目[14F][14G]に関連 ロールズが公正な社会形成に必要とみなす「格差原理」とはどのようなものか。また、不公正だと考える社会制度はどのようなもので、なぜ不公正なのか。 推奨文献関連箇所[14い]第二章(10～19節) [14う] p183-216

↑レポート③タスク[あ]には、自分が選択したテーマの赤枠内の整理番号(例：14-3)を明記してください。

レポートで文献参照する場合、上記の推奨文献を用いる場合は、レポート末尾に記号を用いて[14あ]等の仕方で表示できます。